

永津 禎三

11月17日、琉球新報社島編集局長、高江洲記者と私たち（同行者：池宮城友子）の話し合いを行いました。残念ながら、当初予想していた通り、時間が短く、ほとんど双方の認識をすり合わせることもできませんでした。

私としては、9月28日付記事の安里進「論争ゆがめる誹謗中傷」に〈永津氏は沖縄総合事務局に「私の見解が誤りであった」とわび状を送り「捏造」は間違いだったと認めた。沖縄県立芸術大学と琉球新報社にも同様なお詫びを伝えたようだ。〉とあるのを、高江洲記者は事実でないとして認識しながら、そのまま掲載したことの責任を問い、説明を求めました。しかし、島編集局長の主張は、そもそも「捏造」や「改竄」という言葉を使う際には論拠に一点の瑕疵もあるべきでないというもので、全く議論がずれ違っていました。

琉球新報社が、私の投稿記事に対してそのようにお考えなら、安里氏の主張に付した今回の記事ではなく、それを独立した「見解」として掲載されればよろしかったのです。そうであれば、その「見解」は琉球新報社の見解として尊重しつつ、それとは異なる私の見解をどこかで示せば良いことであると思います。

問題としたのは、事実を報道すべき新聞が、事実でないとして認識しながらその間違った内容の記事を掲載したことです。

もしも阿形大龍柱のトグロ巻部が180度向きを変えられていたことを当初から認識していても、昨形大龍柱も同様だとするのは、私が論考を書いた時点では、ひとつの推論でしかなく、私に対する安里氏の反論の中で示された東京大学大学院工学系研究科建築学専攻所蔵写真によって初めて分かったことです。

しかし、琉球新報社としては、西村論文をしっかりと読めばこのような「捏造」や「改竄」という言葉を使うことはなかった筈であるとの思いが強いのだろうと感じました。

議論としてはずれ違いではありますが、まずはここから丁寧にすり合わせをしていかなければ双方の認識の差を縮めることは困難であると痛感しましたので、この地点から丁寧に話し合いたいと思います。

10月15日付抗議文書に私は次のように書きました。

高江洲氏は、西村貞雄『首里城正殿・大龍柱の「向き」についての考察』92ページの記述、〈胴体部を無くした大龍柱は、下部の巻き付け部分が1/4回転ずらした状態で据え付けられ、坂本万七の阿形の後面写真（写真⑦）の下部巻き付け部分は、本来は右側面に当たる箇所である。〉で、「トグロ巻部が180度向きを変えられていたことは明白」と主張するが、この記述はそこまで明解なものではない。

私は、正面向きから相対向きに変えるとき、「トグロ巻部」まで手を加える必要がなく、頭部胴部のみを90度回したものと思いついていた。そのような思い込みで西村氏の論文を読んだので、「本来は右側面に当たる箇所である」の右側面を大龍柱に向かい合わせに立った時の右側と誤読していた。

この、「そこまで明快なものでない」ことや「誤読」せざるを得ない要因について、まずは一緒に考えていただきたいと思います。

「トグロ巻部が180度向きを変えられていたことは明白」とおっしゃる高江洲氏や琉球新報社の方々ならば瞬時に答えていただければと思いますが、まずは、ひとつの質問について答えてください。

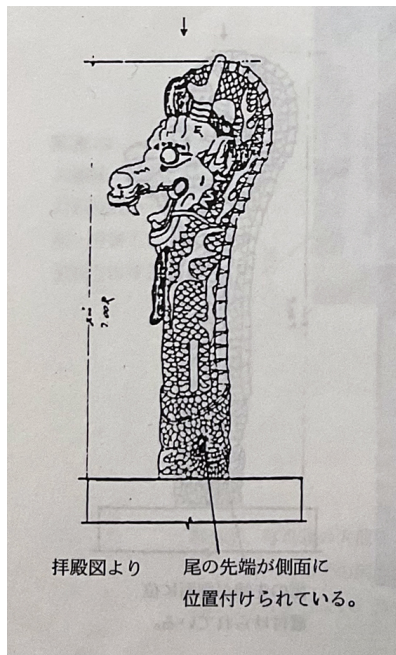


図 1

左の図1は西村貞雄『首里城正殿・大龍柱の「向き」についての考察』の94ページに載っている図です。西村貞雄氏が平成の首里城復元の時、沖縄総合事務局から提供された拝殿図に載っていた図をそのまま転載したものです。

拝殿図なので、この図は二つの大龍柱が向かい合わせになった状態の阿形大龍柱ですが、尾の先端が手前側にあります。私が誤読してこうなっていると考えていた状態の阿形大龍柱に見えます。

大龍柱が向かい合わせにされてもトグロ巻部はそのままの状態のように見えます。

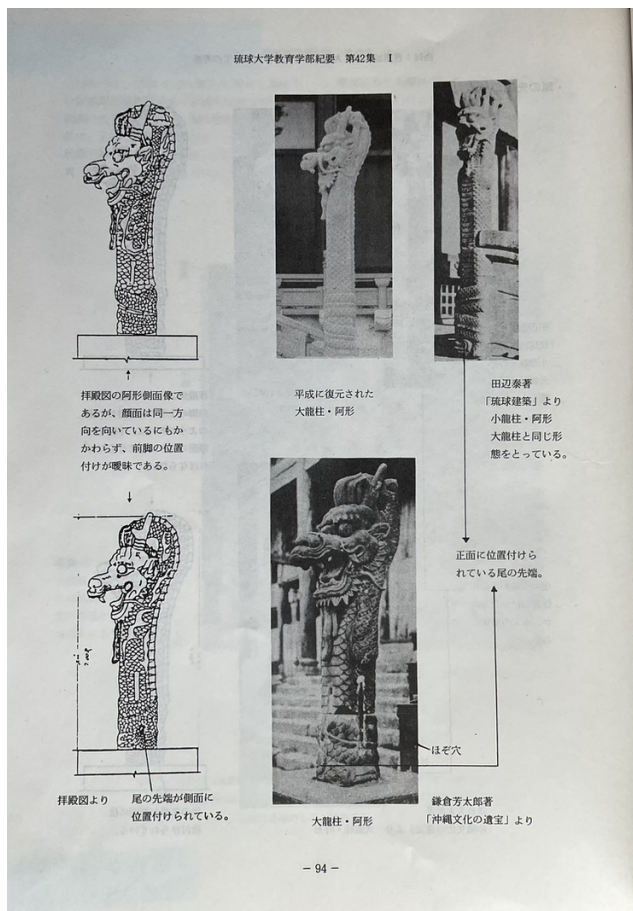
「この図1がなぜ拝殿図に掲載されているのかを説明してください。」

これが質問です。

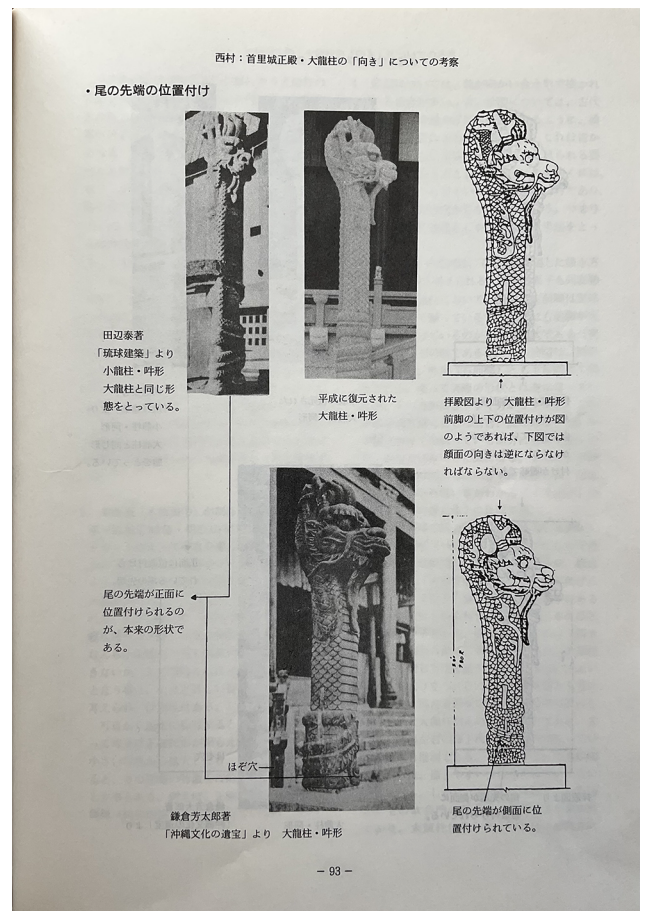
西村氏の紀要論文のこの94ページ全体も載せましょう。上下の阿形大龍柱の図の間には、西村氏の注記が、次のようにあります。

↑  
 拝殿図の阿形側面図であるが、顔面は同一方向を向いているにもかかわらず、前脚の位置付けが曖昧である。

↓  
 また、93ページには呷形大龍柱の図版が掲載されていますのでこちらも載せましょう。

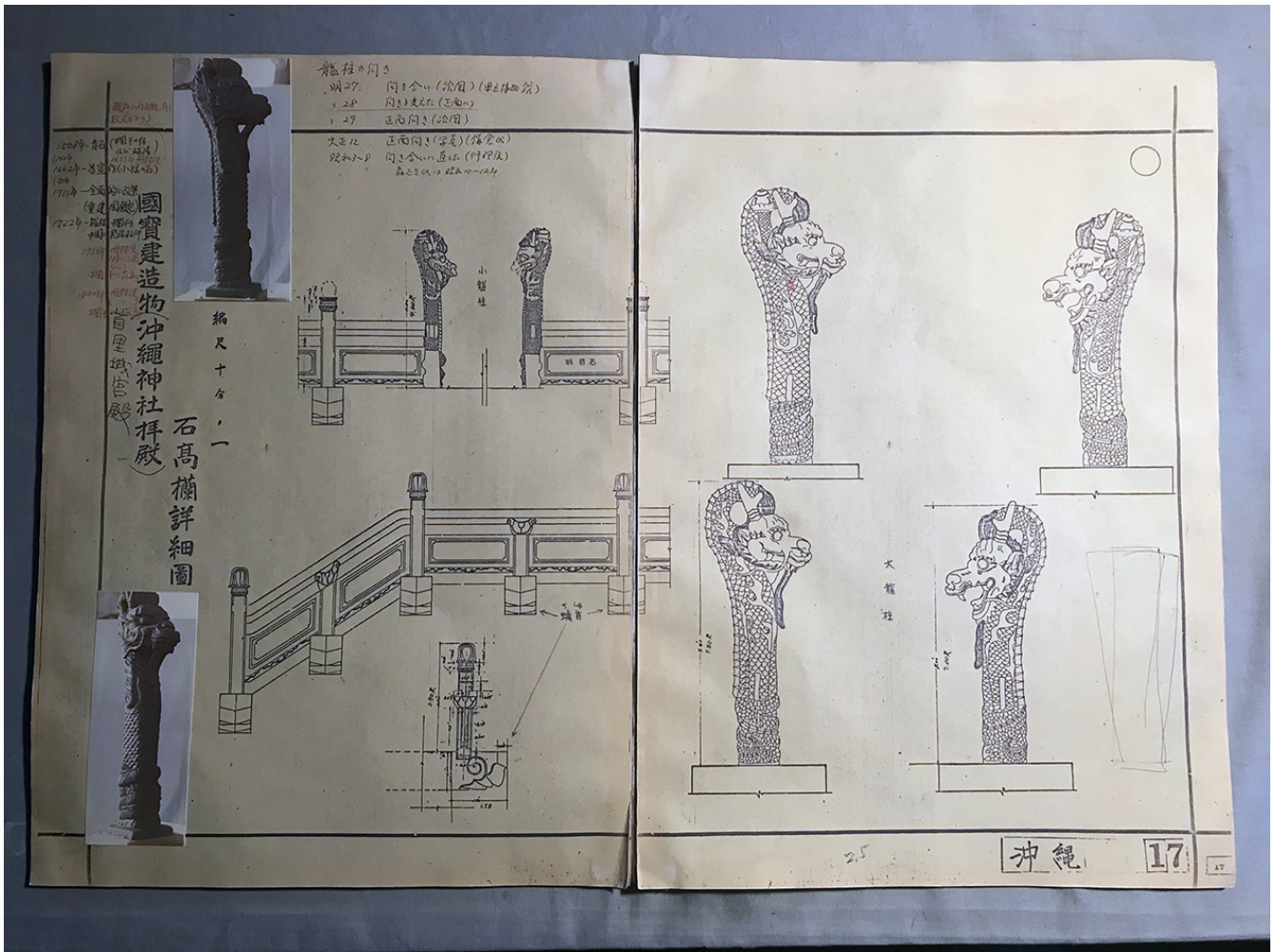


西村紀要論文 P.94



西村紀要論文 P.93





國寶建造物沖縄神社拝殿 石高欄詳細圖

西村貞雄氏が『首里城正殿・大龍柱の「向き」についての考察』に転載した時に何らかの間違いが生じたわけではないことを示すために、平成復元時に沖縄総合事務局から渡され、保管されていた西村氏所有の拝殿図を撮影させていただきました。

これを見れば、図は間違いなくそのまま転載されていることが分かります。

トグロ巻部はそのまま、頭部胴部のみが90度回されたと私が思い込んだ理由は、まずはトグロ巻部が180度回転する合理的な理由がなかったことです。頭部胴部に合わせた訳でもなく造形的に意味がないし、台石からわざわざ外して別の向きに固定し直すのは手間がかかるだけで、構造的にも強度が落ちるだけです。トグロ巻部は動かさないというのが自然な考えです。

それに加えて、図1のような拝殿図の図の存在もその原因の一つとなりました。この図のようになっていたものと思い込んでいたのです。

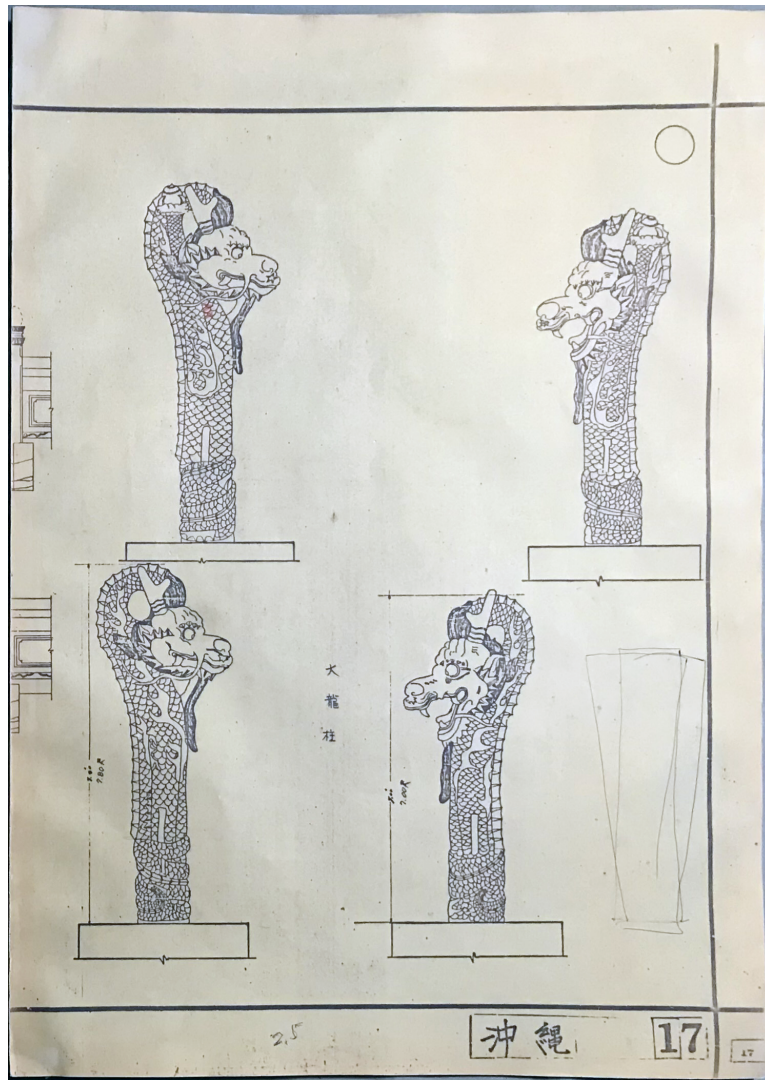
「この図1がなぜ拝殿図に掲載されているのかを説明してください。」

さて、この質問への答えは見つかりましたか？

その答えを伺ってから、次の話題に移っていきたいと思っています。2、3日のうちに答えをいただければ幸いです。

本当は、島編集局長にこそ、この質問に答えていただきたいのですが、「そんなものはこの忙しい私には出来ません。担当記者で答えておきなさい」と言われそうですね。どうぞ、答えに窮した場合は、暮らし報道グループの方々ともご相談ください。

ご解答をお持ちしております。



琉球新報「誹謗中傷」記事への抗議：対話のための資料 Vol. 1

著者：永津禎三

自家版 2022年11月25日発行